

待つということ

だいだいのくみ　:) :)　:) :) :)

むらさき幼稚園には、上の子のプレイルームから、途中2年間の空きはありましたがかれこれ10年お世話になっています。

:) :)は、1年プレイルームへ通ってからの入園。ホッと一息つけたのもその日だけで、入園翌日に降園バスでバス酔いし、それがキッカケとなって行き渋りの日々が始まりました。:) :)の学年は誕生日が遅い子が多く、しかも:) :)は第二子で言葉も達者、6歳も上の兄の友達にばかり遊んでもらっていたので、話しかけてもテンポよく返ってこないクラスの子たちでは物足りなかったのでしょう。「いつまで(幼稚園に)いかなあかんの？」「つまんない」

子どもについて右も左も分からない、全くの母親初心者だった私が、兄がお世話になった4年間で園から教えてもらったことは、子どもの力を信じて待つ　という事と、安心できる場所を整える　という事。とは言え、数年ぶりのひとり時間を心待ちにしていた私には、入園してからの方が手が掛かるようになってしまった:) :)は大変でした。空腹でバス酔いしないよう、少しでもたくさん朝ごはんを食べさせたり、降園バスに乗れたらもらえる「引換券」、それを集めて欲しいおもちゃと交換できる事にしたり、どうしても朝バスに乗りたくない日は「ママ送って券」を渡すと送ってもらえるようにしたり。それでも降園バスに乗れず、担任の先生からお迎えのお願いの電話がある毎日。入園したら毎日当たり前に園に行ってくれて、疲れたらたまにはお休みして…という園生活を送っていた兄とは全然違う！どうしたら機嫌よく行ってくれるか、試行錯誤です。:) :)の気分次第で振りまわされ、イライラする度に「整えて待つ…」「整えて待つ…」と呪文のように思い返していました。

年少の午後保育が始まり、担任の先生の絶妙なサポートのおかげで、降園バスに乗れるようになってきました。でも相変わらずの「つまんない」。行ったら行ったで年長さんや年中さんと遊んだりはしていたようですが、兄たちと遊ぶような、自分の能力をはるかに超える刺激的なワクワクはありません。年長さんくらいになれば、同い年の子たちの遊び方も変わってくるのかもしれませんがまだまだ先。どうしたものか。むらさき幼稚園の保育に何の不満もありませんでしたが、転園することもアリなのかな、という考えもありました。

母がモヤモヤ何も動けずにいる内に、年中さんになりました。担任は男の先生。最初は様子見をしていたようですが、大好きな仮面ライダーの話も力いっぱいの戦いごっこも、遠慮せずにやれます。「しがとたたかった」「あたらしいひと(4月からの転入生)も仮面ライダーすきやねんて」園の話も少ししてくれるようになりました。バスに乗れるようになった事に続いて、ようやく重かった第2歩目。それからはあれよあれよと言う間に、4月から転入してきた男の子2人と仲良くなって、数ヶ月前が嘘のように、急に生き生きしはじめました。2学期が始まった頃には、会話の中によく「オレら…」と言うフレーズが！やっと…！という安堵感もありましたが、母からすると変化のスピードについて行けません。でも確かに、降園バスに乗れるようになった時も、先週は週4日お迎えに行ったのに、今週は1回？次の週は0回？母が「あれれ？」と思っている内に出来るようになってしまうのが子どもの成長です。2度目の「あれれ？」を感じながらも、「あ～待っててよかった！」と心から思えました。

年長さんになっても、「オレら」は相変わらず仲良しです。相手の好きなことを真似してやってみたり、思いをぶつけ合ったり、張り合ってみたり、ちょっと嫌になってみたり。男の子の転入生が立て続けに入ってきて、少し世界も広がりました。毎日「つまんない」と言っていたあの頃からは想像もできないくらい楽しそうな毎日です。

いろんな心の動きがあった3年間、大きくなって写真を見ても「あー、こんなヤツいたかな？」みたいになってしまうかもしれませんが、大好きな仲間と毎日一生懸命遊びまわったキラキラした記憶だけは残っていてほしいです。

最後に、常に子どもの気持ちを第一に考えてくださり、保護者に遠慮することなく対等な立場から意見してくださる先生方に尊敬と感謝を。いつまでも、子どもだけでなく、親をも育ててくださる幼稚園であり続けてほしいと願います。

